

平成19年度 長良川河口堰調査検討会報告書

平成20年3月21日

## 1 はじめに

長良川河口堰は、平成7年7月6日、全ゲートの降下が完了（ゲート操作を開始）し、以降本格運用がされ12年が経過した。

河口堰の運用にあたっては種々の懸念が表明されたが、岐阜県においては、この懸念に対し、国や事業者（水資源機構）が十分な対策をとっているかについて調査・検討を行うため、平成5年に長良川河口堰調査検討会を組織した。

この検討会では、県民各界の代表者により長良川河口堰県民調査団を編成し、長良川の水環境や自然環境の保全及び治水などについて、計画・実施された対策が十分機能しているかについて調査・検討を行ってきた。

事業者においても、河口堰の管理・運用後河口堰の治水・利水の効果や環境への影響などモニタリングを実施するとともに、学識経験者を中心とした「長良川河口堰モニタリング委員会」（平成7年度～平成11年度）、「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）」（平成12年度～平成16年度）により審議されている。管理の開始から10年目にあたる平成16年度には「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）」において、河口堰の運用後の環境の変化は概ね安定しており、総じて問題のないことが確認された。なお、「堰部会」は平成16年度をもって解散し、平成17年度より「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会」で審議されている。

当検討会では、県民調査団の調査の結果、問題として提起された事項及び事業者によるモニタリング結果を受け、種々の対策やその効果について「理解及び確認できた事項」、更なる対策を「要望及び推移を見守る事項」として整理した。「要望及び推移を見守る事項」については、問題点への対応について継続して検討を行い、必要な事項については知事に提言を行うこととしている。

今回で通算14回目の開催を重ねた長良川河口堰調査検討会では、平成19年度の長良川河口堰県民調査団に参加された方々からのご意見及び平成18年度長良川河口堰モニタリングの結果をもとに討議を尽くした。

本書は、この検討会の議事録を要約したもので、これをもって平成19年度長良川河口堰調査検討会の報告書とする。

## 2 平成19年度県民調査団と平成19年度調査検討会の経過

平成19年度長良川河口堰県民調査団（通算30回目）

実施日：平成19年10月22日

調査テーマ：(1)水質保全対策について  
(2)環境保全対策について  
(3)河口堰管理状況について

調査場所：羽島市浄化センター、桑原川河川浄化施設、長良川河口堰、アクアプラザながら

調査メンバー：長良川河口堰調査検討会委員、水防団（岐阜市、海津市）、消防団（輪之内町）、自治会連合会（瑞穂市、輪之内町）、漁業協同組合（海津市、大垣市、美濃市、関市、郡上市）、婦人会（大垣市）、団体（羽島市）、岐阜県土地改良事業団連合会、県議会議員、関係市町議会議員（羽島市、瑞穂市、輪之内町、北方町）、関係市町（岐阜市、羽島市、瑞穂市、本巣市、海津市、大垣市、輪之内町、北方町）、公募による参加者

平成19年度長良川河口堰調査検討会（通算14回目）

開催日：平成20年2月14日

開催場所：県民ふれあい会館 14階展望レプションルーム

報告事項：県民調査団の実施報告、長良川河口堰の管理状況、フォローアップ委員会資料

討議内容：(1)水質・底質について  
(2)魚類について  
(3)その他（治水対策などについて）  
(4)まとめ

討議参考資料：

- ・平成18年度 長良川河口堰調査検討会 報告書
- ・平成19年度 長良川河口堰県民調査団 実施状況、要約意見書及びアンケート結果
- ・長良川河口堰調査検討会の記録(平成19年9月)
- ・長良川河口堰の最近の管理状況について
- ・平成19年度中部地方ダム等管理フォローアップ委員会年次報告(平成18年次)について

### 3 まとめ

本検討会では、長良川河口堰県民調査団の調査結果について、「水質・底質」、「魚類」及び「その他」の事項として治水対策などを中心に討議を行った。

この結果、生態系・環境・防災面の現状と講じられている対策について、多くの事項については理解し、確認できたと判断した。一方で、今後も継続して調査を要する事項もある。

当検討会としては、今後とも長良川河口堰の治水効果や環境面への影響等について注意深く推移を見守っていく必要を認め、堰運用上の課題を引き続き検討することとし、本検討会は継続するものとする。

平成20年3月21日

長良川河口堰調査検討会議長

河村 三郎

平成19年度 長良川河口堰調査検討会の要約

大項目	小項目	細目	討議の要点	理解及び確認できた事項	要望及び推移を見守る事項
環境	底質	底質の状況	堰直上下流の底質について	・長良川河口堰運用後も、底質は悪化傾向にないことを理解した。	・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要がある。
	水質	水質の状況	長良川の水質について	・長良川河口堰運用後も、水質は悪化傾向にないことを理解した。	・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要がある。
		水質浄化対策	下水道の整備について	・羽島市が下水道接続率の向上に対して努力していることを理解した。	・引き続き、下水道接続率の向上に対して努力願いたい。
	魚類	人工河川	人工河川の活用について	・平成17年度から「長良川漁業対策協議会(魚対協)」が、アユ人工ふ化放流事業を実施していることを理解した。 ・平成17年度から「長良川漁業協同組合」が、銀毛アマゴ放流事業を実施していることを理解した。	・長良川水系の水産振興のため、今後も人工河川によるふ化放流の実施について努力願いたい。
魚類の遡上		稚アユの遡上数について	・平成19年度はアユの遡上数が多く、アユの遡上量は「自然変動の範囲内にある」ことを理解した。	・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要がある。	
その他	その他	広報活動	広報の推進について	・第1～13回の調査検討会の歴史、変遷、検討項目が「長良川河口堰調査検討会の記録」としてとりまとめられた。	・「長良川河口堰調査検討会の記録」がとりまとめられたことから、今後のPRに活用してもらいたい。 ・自然を守るためには、手を加えていかなければならないことをPRしてもらいたい。